

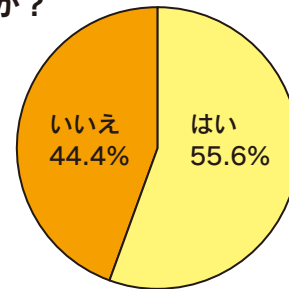
Q4

災害時に女性の視点を生かすために、平常時からできることはどんなことだと思いますか？

- 地域の活動にもっと入り込んでいく。平時の備え、見慣れた環境づくりを行っていく(女性・消防団)
- 防災・減災などの会議に女性をもっと配置する(女性・個人)
- 決定権のある場に女性が参画する。災害時に配慮すべき多様な性のことなどを話し合う場を設ける(女性・団体)
- 防災会議の場に「充て職」だけでなく、女性の登用を進める(男性・個人)
- 校区の防災連絡会などで研修を行う(女性・団体)
- 女性を炊き出し要員とせず、避難所運営に多様な意見を反映する仕組みづくりをする(女性・個人)
- 女性やLGBTQの方、子どものいるお母さんなどいろんな立場からの災害時の視点が重要。避難所運営や備蓄品、日頃の家庭の防災ストックなどに関しても意見交換ができればいいですね(女性・専門職)

Q2

あなたが活動した避難所で、女性の視点を反映させるための取り組みや工夫を行いましたか？



- 授乳室を確保した(女性・団体)
- 運営の中に女性を入れてもらったり、行政の担当者に伝えたりした(女性・議員)
- 困っている当事者に発言を促し、避難所の運営者に申し出るのを手伝った(女性・団体)
- 生理用ナプキンのストックは、本部ではなく女子トイレ周辺に置いた(女性・団体)
- 避難所の責任者を女性にし、その下に、動ける男女を配置した(女性・消防団)
- 避難所に意見箱を置いて意見を出しやすいようにし、課題の聞き取りなども行った(女性・団体)

Q3

熊本地震以降、防災や災害復興に女性の視点を生かすためにあなたが実践した行動や取り組みは？

- 防災士の資格を取得した(複数)
- 男女共同参画の防災講座に参加した(複数)
- 女性防災リーダー養成講座を受講した(女性・複数)
- 他の被災地の経験などを聞いた(複数)



データで見る

地方防災会議の女性の割合が0(ゼロ)の市町村も！ ～熊本県における防災分野の女性参画状況～

内閣府は、地方防災会議における女性委員の割合を3割以上にすることを目標としていますが、2023年12月現在、県内の防災会議で女性の比率が3割以上に達した市町村はゼロ。最高は芦北町の25.7%で、女性委員がゼロの市町村もありました(※1)。また、市区町村の防災・危機管理部局に女性職員がいない自治体は県内で62.2%と全国平均の57.6%を上回っており(※2)、いまだ防災計画策定や意思決定の場に女性が少ないという現状が浮き彫りとなっています。

(※1) 内閣府「ガイドラインに基づく地方公共団体の取組状況調査」(令和5年)より)原則として令和5年12月31日時点
(※2) 令和5年5月内閣府男女共同参画局「地方公共団体における男女共同参画の視点からの防災・復興に係る取組状況について」より

熊本県地方防災会議の
女性委員の割合
市区町村上位ランキング

1位	芦北町	25.7%
2位	宇城市	23.1%
3位	荒尾市	
	あさぎり町	18.2%
5位	菊池市	
	和水町	17.6%

女性の視点で変わる！ 地域の防災・災害対応

熊本地震をきっかけに指摘された、防災・災害対応への女性参画の必要性。当時、避難所支援をしたみなさんは、実際どのような場面で女性参画の必要性を感じ、また行動をしたのでしょうか。熊本地震から8年。改めて、地域の防災・災害対応における女性参画の必要性について考えます。

写真提供：
熊本城総合事務所



熊本地震で避難所支援を行った54人に聞きました！ 「防災・災害対応と男女共同参画」

約8割の人が女性の視点が不足していたと回答

- プライバシーや子どもたちへの対応不足、アレルギーの子どもの防災食対応、離乳食の対応など。子どもの泣き声を気にして、車中泊する人が多かった(女性・個人)
- 女子に男性がつきまとう事案があった(女性・団体)
- 生理用品を男性の担当者に度々くださいとは言えないという声があった(女性・複数)

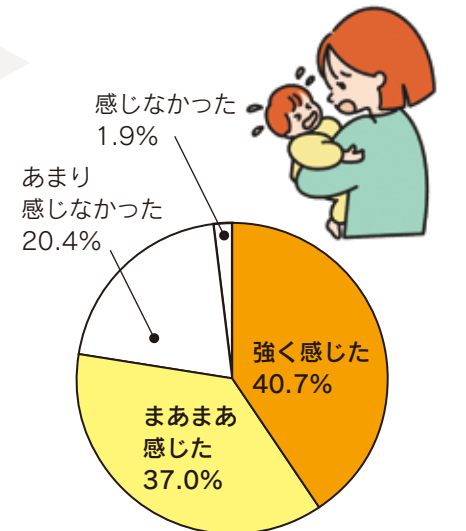


- 妊婦さんや授乳中の女性への配慮がなく、とても不安を訴えていた(女性・議員)
- 避難所内は区画が分かれていたが、雑魚寝状態で、プライバシーの部分で課題があった(男性・団体)

- 洗濯物の干し場がなく下着類が干しづらい状況だった。夜間のトイレの環境に安心安全という視点が不足していた(女性・団体)
- 寝たきりの高齢者や精神的苦痛を抱えた子どものいるシングル家庭への支援物資が遅れた(女性・団体)
- 着替えをする場所、寝泊まりをする区域が分かれておらず、事件につながったケースがある(女性・団体)

Q1

支援を行った避難所で、支援の在り方に女性の視点が不足していると感じましたか？



熊本地震で感じた女性の視点的必要性とは？

アンケートで、避難所での支援の在り方に女性の視点が不足していると感じた人は約4割、「まあまあ感じた」と合わせると約8割でした。「(あまり)感じなかった」という人の声として、「そもそも女性専用の避難所だった」「乳幼児親子の避難所を分けて設置してあったなど避難所や避難したタイミングによっては、女性の視点が生かされた点もあったようです。一方で、「そもそも女性の視点が大事だ」という意識がなかった「多くの人が初体験で、そういうことを考える状況ではなかった」という意見もあり、災害が多発しているなか、女性の視点的必要性に対する理解が求められます。

※アンケートは2024年7月、熊本地震で避難所対応を行った方を対象に実施。個人・団体所属問わず、女性41人、男性13人が回答。